

//
小さな頃から人助けが
たかった。ミマキで働く
ことが、私ができる人助
けです。
//



プロフィール



2018年 新卒入社

技術本部 設計統括部 SW技術部

出身地 マレーシア

最終学歴 理工学研究科

教理・電気電子情報学専攻

技術本部 設計統括部 SW技術部の 2018年に新卒入社した彼に話を聞いてみました。

Q はじめに、あなたを表す3つの「モノ・コト」について教えてください。

1つ目は「ガジェット」(①)。

ほとんど毎日、新しいガジェットのニュース
を見ています。ガジェットに興味を持ったのは
中学校の頃。夢中になっていた従弟にいろ
んなモノを紹介されたのがきっかけです。新機能
が追加されたとか、新しいデバイスが出た
とか、常に最新の情報をチェックしています。い
まの進化は急速なので、置いていかれないよう
に記事を追いかける日々です。

2つ目は「スポーツ」(②)。

サッカー、バスケットボール、バドミントン、
バレーなど、野球以外のスポーツはほとんどで
きます。マレーシアの小学校では、いろいろな
スポーツが体験できるようになっているから
です。いまではバスケットボールとバドミントン

ぐらいしかやっていませんが、こちらに来てか
らウィンタースポーツをやっています。スノー
ボードですが、これは長野ならではの。マ
レーシアではできないことですからね。

3つ目は「料理」(③)。

日本に来てから、故郷の味が恋しくてマレーシ
ア風の料理をつくるようになりました。「風」な
のは、ほんとうのマレーシア料理じゃないから
です。似ているけれど、すべて自分で考え出し
たレシピです。スパイスなど、こちらで調達で
きない食材はネット注文しています。試行錯誤
してつくった自分だけの味。以前、会社でパー
ベキューをした時、わたしがつくったカレーが
意外に好評だったのでとても嬉しかったです。



① 「ガジェット」



② 「スポーツ」



③ 「料理」

Q あなたにとって「働く」とはどん
なことですか？

小さい頃、将来なりたい職業は消防士でした。
人助けがしたかったからです。大きくなってか
らは消防士でなくても人助けができるのではと
考えるようになりました。自分がつくった製品
が違う製品を生みビジネスになる。そして、そ
の製品を手にした世の中の人たちがハッピーに
なる。これは、ある種の人助けだと思います。
給料をもらいながら人助けができるのは幸せ
です。

Q なぜあなたはミマキエンジニアリ
ングを選ばれたのですか？

大学に入る前に長野の高専に在学していたので
すが、工場見学で見た、とてつもなく大きなプ
リントに感動しました。その時から、ミマキの
製品開発に自分が学んだ技術を活かしたいと考
えていました。また、3Dプリンタは大学の研
究室でも使っていましたが、ミマキの開発した
フルカラーの3Dプリンタにも感動し、革新的
な製品をリリースし続けるミマキに惚れ込み
ました。

Q ところで、「今の仕事」について
教えてください。

ミマキのRasterLinkというソフトウェアの再構
築設計や実装をやっています。RasterLinkと
は、印刷したいデザインを、パソコンからミマ
キのプリンタへ送るためのソフトウェアです。
今後のバージョンアップ等の拡張性を考えて、
ソフトウェアの構造を作り直す作業をしていま
す。

Q 仕事の中での忘れられないエピソード
について教えてください。

研修の時に組み立ての教育がありました。自分
はソフトウェアの人間ですからハードウェアは
不慣れです。例えば組み立てではこのような決
まりがありました。「ネジの締め付け具合は何
ニュートンの力加減で。」等。ソフトウェアと
はまた異なる視点で、ハードウェアにはハード
ウェアの奥深さがあり、ハードを知ってソフト
を考えることが大切だとわかりました。

1日の流れ



Q 入社前に勉強したことや、身につ
けたことはありますか？

入社前の研修でビジネスマナーの教育を受け
ました。名刺の出し方、電話の受け応え、ビジネ
スメールの書き方など、これは大学では学べ
ないことですから。

Q では、入社前に勉強しておけばよ
かったこと、身につけておけばよ
かったことはありますか？

大学院での研究は、ひとつのテーマをほとんど
ひとりでやっていたので、チームワークは苦手
です。会社ではチームワークが基本ですから、
いまは仕事をしながらチームワークを身に付
けています。周りの方々も協力的ですので助か
っています。

Q 入社を考えている方にメッセージ
をお願いします。

わたしは将来、これまでミマキになかったよ
うな製品や機能を開発したいと思っています。
わたしたちと一緒に新たな製品をつくりま
しょう。

Q 5年後にはどうなっていたいのか
を教えてください。

MR(複合現実)などを使った新しい機能やサ
ービスを実現できていればと思います。まだ開
発途上のAIの活用も本格的にやっているのでは
ないでしょうか。最先端のモノづくりをして
いたいと思っています。

